

第5学年 国語科学習指導案

日時：平成26年5月12日(月) 3校時
児童：5年1組 男15名 女23名 計38名

【研究主題】ふるさとの復興を担う「人づくり」の展開 ～各教科等の指導の充実・深化をとおしながら～

3年前の大震災。突然襲った地震と津波。電気がストップし、テレビも点かない。携帯電話もつながらず、外部と連絡をとる術もなかった。周りがどんな状況になっているのか全く分からず、漠然とした不安に襲われた。頼りになるのは、自分の目から見える景色とラジオから流れる情報のみ。これからどう行動すればいいのか、考えの拠り所になるものはほとんどない状況だった。普段、何気なく見ていたテレビや新聞が伝えてくれる情報のありがたみを痛感した。

本単元では、新聞を学習材として取り上げる。子どもたちにとって、新聞はまだなじみの薄いマスメディアである。活字が多く、読むことに抵抗を感じる子どもも少なくないだろう。しかし、新聞には様々な分野の新鮮な情報があふれている。知識を広げる意味でも、新聞を読むことは大変有益な行為である。新聞を読むことで、世の中の情勢に興味をもつきっかけにもなるはずである。高学年になった子どもたちにとって、新聞を学習材として取り上げることは、自分の考えを広げるためにも、大変意味のあることだと考える。

単元の前半では、まず新聞とはどんなものかを実際の紙面を概観しながらつかませたい。そして、新聞記事の特徴を理解させることで、新聞の読み方を体得させたい。また、同じ内容を扱った複数の新聞記事を読み比べる活動を通して、新聞記事にも書き手の意図が存在することをつかませ、書き手の意図を考えながら新聞を読めるようにさせたい。書き手の意図を考えながら読むことで、子どもたちの読みが、受け身的な読みから、主体的な読みへと変容し、自分の考えをもつことにもつながると考える。

この単元の学習を通して、新聞に興味をもち、読んだ記事から自分の考えをもてる子どもを育てたい。

- 1 単元名 ～新聞の編集のしかたや記事の書き方に目を向け、新聞のヒミツを探ろう。～
教材名 中心学習材「新聞を読もう」 補助学習材「三陸鉄道の前線開通の記事(岩手日報・毎日新聞)」

2 単元の構想

(1) 学習指導要領に示されている指導目標及び内容との関連

○目標 (C読むこと)

第5学年及び第6学年の目標及び内容

- (3) 目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。【C読むこと】

○内容

①指導事項 ②言語活動例 □本単元を貫く言語活動

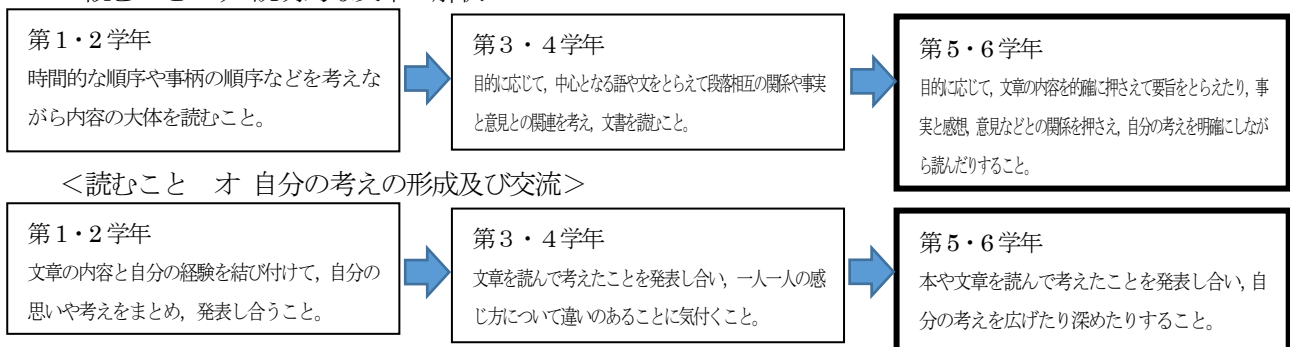
- (1) 読むことの能力を育てるために、次の事項について指導する。
 - イ 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。
 - ウ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。
 - オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。
- (2) (1)の示す事項については、例えば次のような言語活動を通して指導するものとする。
 - ウ 編集の仕方や記事の書き方に注意して新聞を読むこと。

編集の仕方や記事の書き方に注意して、新聞を読む

○学習の系統

<読むこと イ 効果的な読み方 第5・6学年が新出>

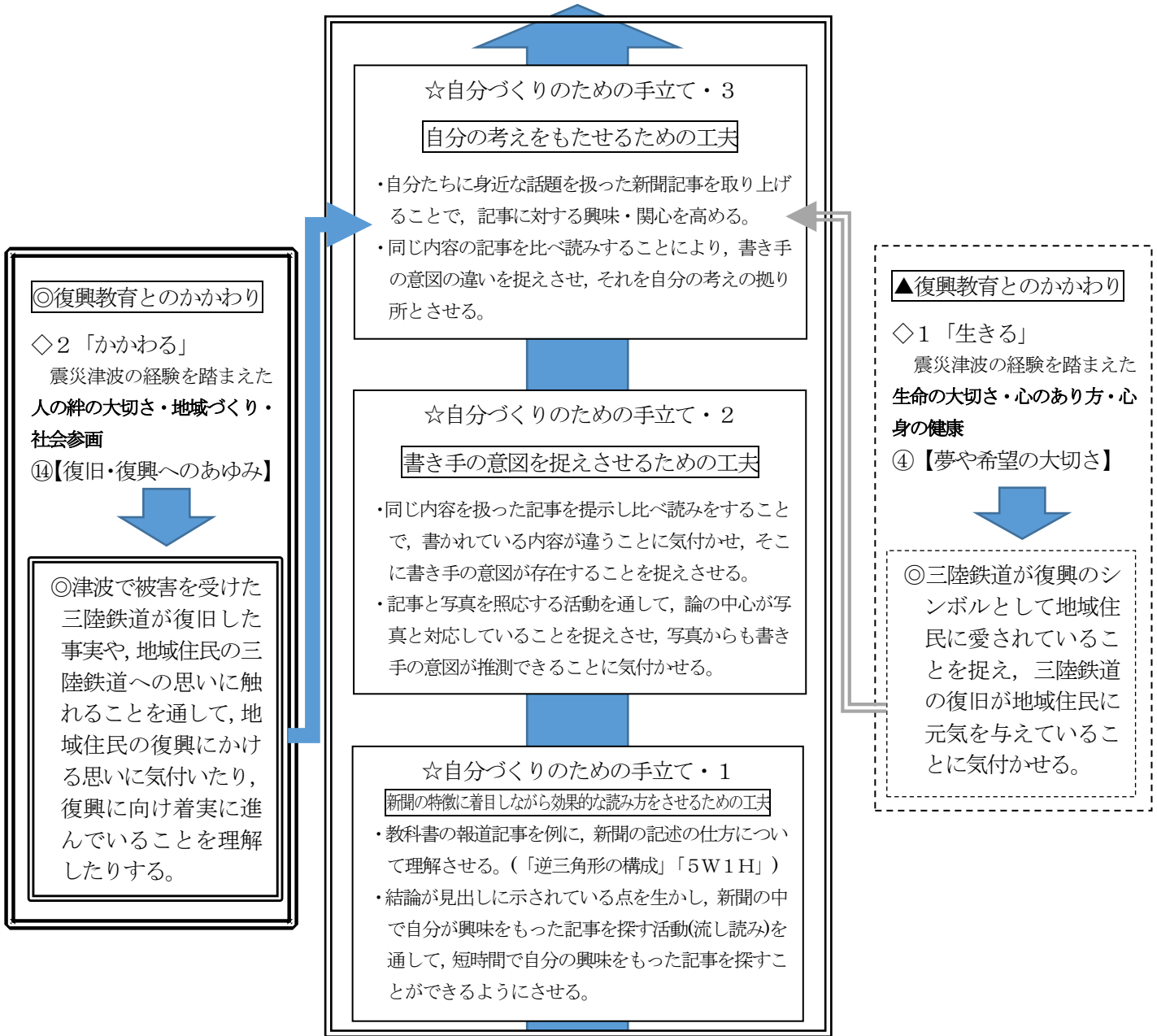
<読むこと ウ 説明的な文章の解釈>



(2) 単元構想図

◎本校の復興に向かう合言葉 = 「自分から」

《本単元で目指す子どもの姿》
【自分づくり】
新聞(報道記事)の記述の仕方や編集の仕方に着目して、効果的な読み方ができる子
書き手の意図を捉えた上で、自分の考えをもつことができる子



【児童の実態】

- 初めて読む文章でも、抵抗なく読むことができる児童が多い。
- 課外クラブに所属している児童が多く、地域のイベントに参加する機会が多い。
- 新聞を読んだことがない児童が多い。
- 全体的に知識量が乏しく、自分の身の回りのことで理解がとどまっている児童が多い。
- 根拠を明確にして考えを述べることができる児童は少ない。

【学習材について】

中心学習材である「新聞を読もう」で取り上げられているノーベル賞受賞の記事とオリンピックの記事は、児童の興味を喚起し、特別な知識なしに内容がつかめる記事が選ばれている。オリンピックの記事は、結果が明白なものでも、見出しや写真による印象、論の中心が違うことが読み取れる。

補助学習材では、三陸鉄道再開の記事を取り上げる。児童にとって身近な話題を扱うことで、記事を読むことに抵抗なく取り組めるだろう。また、復興に向かって進んでいる現状にも気付かせていきたい。

(3) 単元の目標

＜国語への関心・意欲・態度＞

○新聞に興味をもち、進んで特徴を見付けたり発表したりすることができる。

＜読むこと＞

○新聞記事の特徴を理解しながら読むことができる。

○書き手の違いで内容・表現が違うことを理解することができる。

◎書き手の意図を捉えた上で、自分の考えをもつことができる。

＜伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項＞

○文章の構成の一つとして、報道記事のもつ構成に気付くことができる。

3 指導と評価の計画（3時間扱い）

時	主な学習活動	国語科のねらい	評価規準（評価方法）	復興教育のねらい
1	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞を読んだ経験や新聞について知っていることなどを発表する。 ・新聞をいろいろな角度(教科書に提示されている観点)から読み、気付いたことを話し合う。 ・教科書P32を参考にして、報道記事の特徴をつかむ。 ・それぞれが興味をもった記事を流し読みで探し、ペアで交流する。 	<p>○新聞を読んで、興味をもったこと、記事がどのような書き方になっているかについて、気付いたことを交流することができる。</p>	<p>【関】新聞に興味をもち、進んで特徴を見付けたり発表したりしている。(発言)</p> <p>【読】流し読みを使い、短時間で新聞から自分の興味ある記事を選び出している。(ノート・発言)</p> <p>【言】文章の構成の一つとして、報道記事のもつ構成に気付いている。(発言)</p>	
2	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書P33から、二つの新聞の写真・見出しを比べ、気付いたことを話し合う。 ・記事に対応する本文を音読する。 ・二つの記事を比べて読み、書かれている内容の違い、受ける印象の違いなどを話し合い、書き手の意図(伝えたいこと)の中心を捉える。 	<p>○二つの新聞記事を読み比べて、新聞の編集のしかたや書き方について気付いたことを交流することができる。</p>	<p>【読】書き手の違いで内容・表現が異なることを理解している。(発言、ワークシート)</p>	
3 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・三鉄再開に関する二つの新聞記事の見出しと写真を提示し、受ける印象について話し合う。 ・二つの記事を読み、記事の内容をつかむ。 ・記事と写真を照応させる活動を通して、書き手の意図(伝えたいこと)の中心を捉えさせる。 ・新聞記事に対する自分の考えを、書き手の意図を踏まえて書かせる。 ・単元のふり返しをし、新聞に対する自分の認識の変化を考えさせる。 	<p>○二つの記事を読み比べて、新聞の編集のしかたや書き方から書き手の意図(伝えたいこと)の中心を捉え、記事の内容について自分の考えをもつことができる。</p>	<p>【読】書き手の意図を捉えた上で、記事の内容について自分の考えをもっている。(ワークシート、発言)</p>	<p>○三鉄の新聞記事から、地域住民の復興にかける思いに気付いたり、復興に向け着実に進んでいることを理解したりする。(ワークシート・発言)</p> <p>「かわる」</p> <p>⑭【復旧・復興へのあゆみ】</p>

4 本時の学習について

(1) 目標

○二つの記事を読み比べて、新聞の編集のしかたや書き方から書き手の意図(伝えたいこと)の中心)を捉え、記事の内容について自分の考えをもつことができる。

(2) 評価規準 B おおむね満足

読む (オ)	同じ内容を取り上げた二つの記事を比べて読み、そこに書き手の意図が表れていることを理解した上で、自分はどうか考えるかを明確にしている。(発言・ノートの記述)
--------	---

<p><努力を要する児童への支援></p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真と記事の内容を照らし合わせながら、書き手の意図を捉えさせる。 ・書き手の意図からキーワードを絞り、その言葉を自分の考えに取り入れて書かせる。
--

(3) 国語科の視点, 復興教育の視点からの手立て

<p><国語科の視点から></p> <p>ア 自分たちに身近な話題を扱った新聞記事を取り上げることで、記事に対する興味・関心を高める。 【自分の考えをもたせるための工夫】</p> <p>イ 写真から感じることを全体で交流することにより、記事の内容に対する見通しをもたせたり、伝えたいこと)の中心を考える際の拠り所とさせたりする。 【書き手の意図を捉えさせるための工夫】</p> <p>ウ 同じ内容の記事を取り上げ、比べて読むことにより、書かれている内容の違いを捉えさせ、書き手の意図に気付かせる。 【書き手の意図を捉えさせるための工夫】</p> <p><復興教育【自分づくり】の視点から></p> <p>ア 三陸鉄道の前線開通の記事を取り上げることにより、三陸鉄道の復旧を心待ちにしていた住民の思いや、復旧・復興が着実に進んでいることに気付かせる。 ⑭ 【復旧・復興へのあゆみ】</p>

(4) 展開

段階	学習活動 (○主発問) ・期待する児童の反応	○教師の支援	◎評価 ◇目指す児童の姿
つかむ	<p>1 前時までの学習を想起し、報道記事の特徴や、記事には書き手の意図が表れていることを確認する。</p> <p>○比べ読みすることで、どんなことが分かりましたか。</p> <p>2 本時の学習課題を確認する。</p> <p>○初めて読む新聞記事でも、これまで学習したことを生かして内容が読み取れるかな。</p>	<p>○パワーポイントを活用し、これまでの学習を想起させる。</p>	<p>◇掲示を参考に、前時までの学習を想起している。</p>
3分	<p>二つの記事から書き手の意図をとらえ、自分の考えをもとう。</p>	<p>○本時は、今までの学習を生かして二つの記事を比べ読みすることを通して、内容を読み取り、書き手の意図を捉えた上で、自分の考えをもつことがねらいであることを捉えさせ、課題設定につなげたい。</p>	

<p>ふかめる</p> <p>3 4 分</p>	<p>3 二つの記事が載せた写真と見出しから、気付いたことを話し合う。</p> <p>○この写真と見出しから、どんなことが伝わってきますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民が喜んでいる様子。 ・旗を振って、列車の開通を祝っている様子。 ・うれしそう。 ・寂しい感じ。 ・津波の被害が大きかったこと。 <p>4 記事の本文の範読を聞き、内容をつかむ。</p> <p>5 記事と写真を照応させ、書き手の意図を話し合う。</p> <p>○二つの記事に合う写真はどちらだと思いますか。根拠となる部分にサイドラインを引きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民のうれしそうな発言 ・三鉄職員の決意に満ちた発言 ・復興やがれきといった言葉など <p>○それぞれの記事で、読み手に伝えたかったこと(書き手の意図)は何でしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民の喜び・期待 ・復興に向けた決意・誓い 	<p>○記事への興味をもたせるために、資料提示の仕方を工夫する。</p> <p>○新聞記事の概要を伝える。</p> <p>○住民が喜んでいる写真から提示し、児童の気付きを出しやすくさせる。</p> <p>○気付きが少ないようなときは、写真に写っているものを発表させ、そこからどんな感じが伝わってくるかを考えさせる。</p> <p>○岩手日報の写真では、写っているものや前の写真と比べて違う点を中心に発表させ、そこから受ける印象を考えさせる。</p> <p>○二つの記事を提示し、範読した後、分からない言葉などを確認する。</p> <p>○「引用している発言」がだれの発言かに注目させたり、写真から受けた印象や写真に写っているものと本文の言葉をつなげたりしながら考えさせる。</p> <p>○毎日新聞の記事を確認した後、岩手日報の記事を取り上げ、「ぎっきの記事とどんなところが違う?」と問うことで、内容の違いを意識させていく。</p> <p>○二つの記事を読み比べること(比べ読み)で見えてきた違いをもとに、考えさせる。</p> <p>○「短い言葉で言う?」と問うことで、書き手が伝えたかったことを象徴的に捉えさせ、書き手の意図の違いを明確にさせる。</p>	<p>◇写真と見出しから、気付いたことを発表している。</p> <p>◇写真と本文を照らし合わせながら、自分の考えを発表している。</p>
<p>ひろげる</p> <p>8 分</p>	<p>6 記事の内容に対する自分の考えを書き、交流する。</p> <p>○書き手の意図を踏まえながら、記事を読んだ自分の考えを書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三鉄が住民の心の支えになっていることが分かり、もっとがんばってほしい。 	<p>○書き手の意図を踏まえながら、自分の考えを書くようにさせることで、主体的な読みにつなげる。</p>	<p>◎書き手の意図を捉えた上で、三陸鉄道前線再開に対する自分の考えを書いているか。(ワークシート・発言)</p>

(5) 板書計画

新聞のひみつを探ろう

①

(岩手日報の記事本文)

- ・うれしそう
- ・大漁旗・お祝い
- ・活気がある

②

(毎日新聞の記事本文)

- ・さびしい
- ・工事中
- ・背景が海

【住民の喜ぶ様子の写真】

【復興途中の島越駅を走る三鉄】

◎記事に対する自分の考え

(個人の考え)

決意・復興への思い

再開の喜び・期待

二つの記事から書き手の意図を捉え、自分の考えをもたそう。

※記事の写真を提示する際には、ICTを活用し、拡大提示できるようにする。

(6) 本時のワークシート

新聞のひみつを探ろう

名前

◎二つの記事から書き手の意図を捉え、自分の考えをもたそう。

①

三陸鉄道は6日、東日本大震災で最大の被害を受けた北リアス線の運行を再開した。5日の南リアス線と合わせて、三陸沿岸の公共交通の柱となる南北リアス線全107・6kmが完全復旧を果たした。津波で線路が流され、駅付近ががれきりだらけになったあの日から、復活を信じ待ち続けた住民の歓迎に列車の汽笛が応え、走った。

午前6時9分、太平洋を背に久慈発宮古行きの上り一番列車が田野畑村の島越駅に到着した。島越駅区間は被災により駅舎や橋が跡形もなく流失した。約300mの区間に高さ10m以上の堤を築く難工事を進め、住民も運行再開を信じて復旧が決まる前からがれき撤去に取り組んだ。

80年前の開業時に車掌を務めていた駅長は「気が引き締まる思い。沿線の復興の一助になれるように頑張っていきたい」と力強く語った。

沿線人口が回復していない中、2014年度は前線運行再開の追い風になり、震災学習列車を中心にした交流人口の拡大に取り組む。望月社長は「住民の喜びが伝わり、鉄道は地域にとってかけがえのない存在だとあらためて感じた」と、利用促進策の充実を誓った。

②

東日本大震災で前線不通になった三陸鉄道の北リアス線は6日、最後に残った不通区間で運転を再開した。5日の南リアス線全線復旧と合わせ、震災から3年余りで前線107・6kmが完全復活した。

この日、宮古発下り始発は定刻通り午前6時8分に発車。宮古駅前で記念式典があり、復旧費用を支援したクウエートの駐日大使ら約140人が出席。記念列車が市立宮古小児童が演奏する「あまちゃん」のオープニング曲に送られて走り出すと、ホームは万歳や拍手、歓声で包まれた。

沿線では、住民が大漁旗などを掲げて歓迎した。田老駅近くに住む腹子時治さん(71)は「よく復活した。次は自分たち地元住民が鉄路を支える番だ」とエールを送った。

東京都の大学1年、竹中遼吾さん(18)は高校時代の3年間、所属していた鉄道研究所として集めたお金で、インターネットを通じて乗らずとも乗車券を購入する支援を続けた。「社員や地元の人が笑顔でうれしかった」と涙ぐんだ。

書き手が伝えたかったことは？

☆二つの新聞記事を読んで、あなたはどんなことを考えましたか？自分の考えを書こう。